

檜葉町学校運営等検討委員会答申

本委員会は、令和元年5月9日に、檜葉町長から「檜葉町の学校運営について」の諮問を受け、4回の委員会とパブリックコメントを行った。

委員会においては、檜葉町で学校を再開して3年目を迎え、予測不可能な未来を生き抜く人材、持続可能な地域の復興に貢献できる人材を育成するための「日本一の教育」を目指していくため、更なる教育環境の充実について、議論を行った。

委員会では、保護者・行政関係者・学校関係者等からヒヤリングを実施した上で、檜葉町復興計画第2次第2版との整合性を図りながら、今後10年間の小・中学校の在籍者トレンド等を資料とし、保護者・小中学校長・住民代表・有識者・地域コーディネーター等13名と、文部科学省・復興庁・福島県からオブザーバーの参加をいただき、様々な視点から広く意見を交換し、パブリックコメントでの意見を参考に、今後の学校運営の在り方についての意見を集約したので、答申するものである。

「檜葉で教育を受けさせたい、檜葉で子育てをしたい。」と願っていたような特色と魅力ある教育環境、一人一人の学びを保障するような教育環境をつくるため、関係各位の一層の御尽力をお願いします。

令和元年9月3日

檜葉町学校運営等検討委員会

委員長 高橋尚子

諮問への答申内容

①小学校の統合について

檜葉南小学校、檜葉北小学校が同じ校舎で一緒に授業を行っている現状や、今後の学校の適正規模を考慮すると、南小学校、北小学校を統合することが望ましい。

ただし、両校がこれまで培ってきた歴史や伝統、地域との繋がりについては、十分な配慮をしていただきたい。

付帯意見

両校の統合により、現在よりも教職員数が減少することが懸念されています。

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故という、未曾有の複合災害に見舞われた町の復興には、長期的視点が不可欠です。将来の町を担う子どもたちのため、統合により教育の質が低下しないよう、教職員の配置等について、国・県と対応を協議した上で統合を進めていただきたい。

②小学校の校舎について

平成29年度に檜葉町内で、檜葉南小学校、檜葉北小学校、檜葉中学校を再開して以降、児童・生徒は同じ校舎で学んできました。

しかし、今後の児童・生徒数の推移から、将来的に普通教室に不足が生じる可能性があることや、音楽室等の特別教室、体育館などの使用状況を踏まえると、小学校の校舎は、現在「檜葉まなび館」として地域活動の場に利用されている檜葉南小学校とすることが望ましい。

付帯意見

校舎の場所が変わることから、児童の通学に支障が生じないよう対策をしていただきたい。

また、小学校・中学校を単独校舎とした場合、使用頻度が少ない教室が発生してしまうため、地域連携のために使用するなど有効活用を検討していただきたい。

③小学校と中学校の連携について

小学校と中学校に物理的な距離が生じても連携に支障がでないよう、保護者、教職員等の意見を取り入れながら、具体的な内容について、引き続き検討をしていただきたい。